



# こやまの小族



## 田んぼアートと古代ハス&さきたま古墳

田んぼをキャンバスに見立て、数種の稲を絵具として描くアートは、圧巻です。行田市では、2008 年から毎年 6 月に一般参加者とボランティアにより田植えをすると、12 月頃お米のプレゼントがありますよ～（参加費¥1000）

7 月下旬から 8 月にかけて絵柄がはっきり見えます。

9 月頃から茶色に変化して 10 月になると稲刈りです。

2015 年には、27.195 平方メートルと世界最大の田んぼアートとしてギネス記録に認定されました。（縦 180m、横 165m）



「未来へつなぐ古の軌跡」



「鬼滅の刃・無限城編」

2025 年は縦 180m、横 150m の竈門炭治郎を高さ 50m の展望室から、観ることができます。

展望室（行田タワー）へは、11 人乗りエレベーターが一基のみ最大で 2 時間待ちもあったとか。



H27年度 田んぼアート使用品種等

色	品 種	主な使用箇所	備 考	面積：約 28,000㎡
1 緑	彩のかがやき	地球（海）	埼玉県奨励品種【配布用】	【縦】 160m（北側） 180m（中央） 170m（南側）
2 薄白	白いかがやき	地球（日本・陸地）		
3 白	ゆきあそび	人物・星・はやぶさ2		
4 ピンク（穂）	西海観246	鎌・羽衣	9 月上旬頃、ピンクの穂	【横】 50m（北側） 50m（中央） 65m（南側）
5 銀（穂）	（新）次世代のまなざし	蓮	9 月上旬頃、白い穂	
6 黄緑	（新）キヌヒカリ	蓮葉たく・髪飾り	葉が他の穂より早く黄色に色づく	
7 黒	紫 905	髪・うし		
	紫 905（背景）	背景（宇宙）		

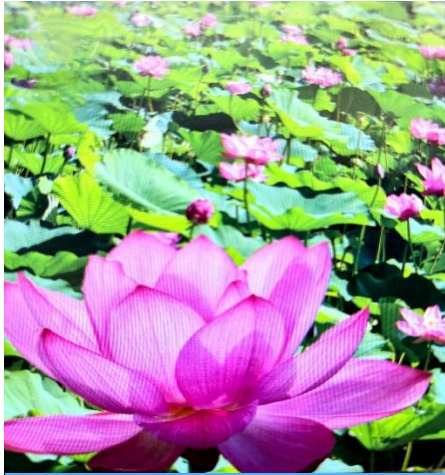
○使用品種

色	品 種
緑	彩のかがやき
白	ゆきあそび
赤	べにあそび
黒	紫 905

↑  
2015 年  
←2025 年  
パンフレットより



# 古代ハスの里



## 行田蓮の特徴

ぎょうだ はす はなはす  
行田蓮は花蓮のなかでも、古代の蓮のもっている  
さまざまな特徴をそなえています。



横から見たつぼみがだ円形

花びらの色はやや濃い紅色で  
糸線は不鮮明



葉心角は120°~130°と小さい



花径は25~28cmの大型種



葉頭における切れ込みが大きい

↑  
展示室より



42 種類、約 12 万株が咲く 14 万平方メートルの公園。  
行田ハスは地中から出土した 1400 年から 3000 年前の種が自然発芽したものです。  
立葉は 180 cm 以上、花径は人間の顔より大きく、ベンチに乗ったり、自撮り棒で  
撮影しました。こんなに大きなハスは、観たことがありませんでした。  
開花期間は 4 日間で、段々と色が薄くなり、午前中が見頃、午後には蕾になると  
いうことで朝 8:30 に到着撮影です。





# さきたま古墳群

県名発祥の地であり、5世紀後半から7世紀中頃に連続して築かれ前方後円墳7基、大型円墳2基、方墳1基、小円墳群、約30ha（東京ドーム8個分）の公園です。余りの広さに全て回り切れず、主要な古墳のみ6基、回ることにしました。



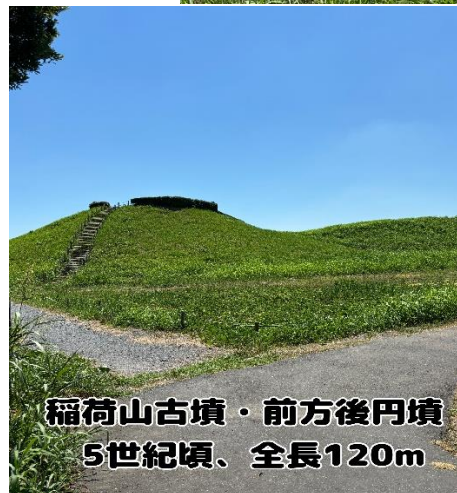
丸墓塚古墳・円墳  
日本最大級



二子山古墳・前方後円墳  
多くの土器が出土



二子山古墳



稲荷山古墳・前方後円墳  
5世紀頃、全長120m

上空写真はパンフレットより



稲荷山古墳

←**国宝** 金錯銘鉄剣  
稲荷山古墳より出土

鉄剣には「私の先祖は代々親衛隊長を務めてきた。私はワカタケル大王に仕え天下を収めるのを補佐した。辛亥の年7月に、これまでの功績を刻んで記念とする」と記されています。

瓦塚古墳・鉄砲山古墳・二子山古墳・丸墓山古墳  
稲荷山古墳・将軍山古墳のうち5基に上りました。  
将軍山古墳は石室見学、頂上禁止。

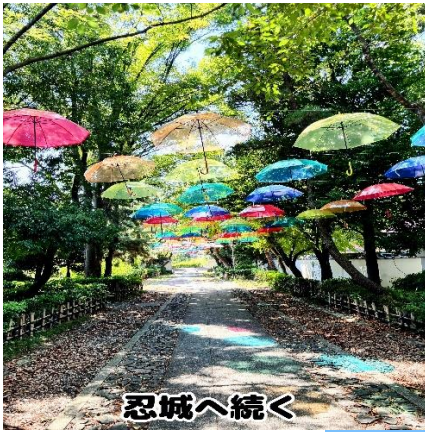
頂上は、台地になっており何もありませんでした。  
埴輪・須恵器・馬冑（馬の鎧）等々出土しています。



将軍山古墳・前方後円墳  
横穴式石室を発掘



## バスで1駅、忍城(おしじょう)へ足を延ばしました。



室町時代の初めに成田氏により築城され、戦国時代の終わりに豊臣秀吉の関東平定に際して石田三成らによる水攻めにも耐えたことから、『浮き城』と言われた。関東七名城の一つでもあるが、現在の御三階櫓は、明治維新の際取り壊されたものを再建したものです。



歴代忍城主の家紋	
	<b>丸に三つ引き 成田</b> 《成田氏》 戦国時代前期から天正18年(1590)7月まで 成田顯泰・成田親泰・成田長泰・成田氏長
	<b>丸に三蝶の内十六菊葉 大河内松平</b> 《大河内松平氏》 寛永10年(1633)5月から寛永18年(1639)1月まで 松平信綱
	<b>丸に三つ葉 阿部</b> 《阿部氏》 寛永16年(1639)1月から文政6年(1823)10月まで 阿部忠秋・阿部正能・阿部正武・阿部正壽・阿部正允・阿部正敏・阿部正徳・阿部正由・阿部正権
	<b>丸に三つ葉 奥平松平</b> 《東条松平氏》 天正19年(1590)7月から慶長5年(1600)10月まで 松平忠吉 《奥平松平氏》 文政6年(1823)10月から明治4年(1870)7月(慶應義塾)まで 松平忠興・松平忠彦・松平忠国・松平忠誠・松平忠敬



松平氏が、桑名より忍城へ国替えの際、鐘も移されました。現存するこの鐘は子の忠刻が、父(松平忠雅)の愛した鐘を火災により、失ったことを嘆き宝暦14年再鋳したものです。



今回は、36℃という猛暑の中、熱中症対策の荷物と早朝5:27発の電車に乗り、ハードスケジュールと交通アクセスの悪い地への旅でした。外人観光客を見ることも無くゆったりとした気持ちで観光でき、満たされました。ただし、10:00近くになると観光バスツアーや一般の方たちで、いつも見る光景と怒号に……

田んぼアートと古代ハスの見頃が、どちらもピーク時とはいかず、欲張り過ぎでした。(埼玉県行田市の旅でした。)